

留学報告書

札幌・岩見沢校 音楽科教育専攻
大学院1年 竹田美奈子
シベリウス音楽院 フィンランド
2018年9月～2019年5月

「何も分からない状況を体験することができた」

およそ9か月分の荷物が詰まったキャリーバッグふたつと楽器を持ち、初めてフィンランドに降りた時の感動は今でも忘れられません。着陸するときに飛行機の窓から見える北欧の針葉樹の森に、これからフィンランドでの生活が始まるのだと思うと心が弾み、同時に日本から遠く離れたところに来た解放感がありました。空港から市内へ向かう電車の中では、あまりの荷物の量に座ることはできませんでしたが、初めて見るフィンランドの景色に目を輝かせておりました。

さて、ここから困難が始まります。海外でもスマートフォンが使えるように sim カードを購入しますが上手くインターネットにつながらない。大学のオリエンテーション前に一度下見に大学に行ってみたく、Wi-Fi がないと使えないスマートフォンと地図を片手にヘルシンキの街を歩きました。しかし屈曲の多い道に地図の見方がわからなくなり、スマートフォンの GPS もうまく作動せず、太陽の位置で方角を特定しようにも日本とは全く異なる影の長さ、太陽の角度に困惑、街には英語の標記も全くなく(公用語はフィンランド語とスウェーデン語)、右も左も何も分からないとはまさにこのことかと不安になりました。空も薄暗くなるにつれ不安もさらに大きくなってきたころ、この何も分からない状況は、言葉の通じる日本では経験できないことなのではないか、と考えられるようになり、不安も通りこして楽しいと思えるようになってきました。

ここで学んだことは、わからないことがあったらすぐに誰かに聞く、ということです。この後は本当にいろいろな人が助けてくださいました。フィンランドの方は、道で迷っていたり、大きな荷物を持つてる人を見掛けたら声をかけてくださいます。日本人は恥ずかしがりやで、見知らぬ人に外国語で何か聞いたり助けを求めたりすることは苦手かもしれませんが、人に聞くことは解決への最大の近道だと感じました。Sim カードのことも携帯電話のお店に直接伺い解決することができました。

また、主にコミュニケーションは英語でした。フィンランドの学生や各国から集まる留学生はみんな英語が不自由なくできます。初めのうちは耳が慣れず、オリエンテーションでも何について話しているのかはわかっても詳しいことを理解するのは難しかったですし、会話でも、どうしても自分の考えをきれいな英文にできませんでした。私はあまり英語が得意ではありませんでしたが、みんな優しく、私の言おうとしていることをきれいな英語に直してくれたり、簡単な英語で話しかけてくれたりゆっくり話してくださいました。だんだんと友達も増えていき、英語にも慣れることができましたし、外国の方と英語を使って積極的にお話しをすることができるようになったことは大きな成

長でした。

そして英語ができれば海外旅行は問題ないということがわかりました。ヨーロッパの国々は島国の日本とは違い国同士が隣接しており、留学中に公用語が英語ではない8か国に足を運びました。旅先ではストライキがあり、観光客同士英語で相談しタクシーを乗り合いする思い出もありました。海外では時間に余裕をもって行動すること、とても大切だとあらためて感じました。治安があまりよくないと言われている街での鞆の持ち方も、いざという時に体の前で抱きかかえられるもの、肩から斜めに、腰の前、見える位置に鞆をかけるなど友達が教えていただきました。旅行では、食事や景色、素敵な街並みなど異文化を楽しむだけでなく、貧しい人々、物乞いをする人々、ペットボトルのゴミをあさっている人もたくさんいること、道路に捨てられているゴミ、たばこの吸い殻が大変多かったり、路上で観光客に話しかけ、お金を盗ろうとする人もいて、日本にはなかなか知ることのできないヨーロッパの社会問題も見て、なぜこのようなことが起こるのか考えさせられました。

さて、留学から得たものは、もちろん自分の専門的な研究分野についてもたくさんありますが、今回は海外の生活を中心に書かせていただきました。これから留学を希望するみなさんはホームシックなどの心配もあるかもしれません。私は留学して一か月経ったころ日本食シックになりました。フィンランドで美味しいラーメン屋さんは見つけれませんでした。北欧では寿司が人気でなぜか寿司屋はたくさんありますが。日本からのインスタント麺やカレールーに助けられました。またフィンランドの学食は350円ほどとお安いです。外食はとても高いです。なので日本のような飲み会というよりホームパーティーが多いです。家のオーナーや音楽院の友達はみんな料理が上手で、日本ではほとんど自炊をしなかった私が、いろんなかたと料理を作り、教わったこともよい思い出になりました。友達ができるととても楽しいですし、困ったことがあっても助けてくれる、そして英語など言葉も慣れてきます。英語など語学は留学先の授業についていけるように準備しましょう。日本語の文章を外国語に直す練習はとても効果的だと思います。授業中意見を問われることやディスカッションの時間で自分の考えを発言することもあります。一番つらかった授業は、専門的な本を6ページほど読んでプレゼンテーションをするものです。特に専門書の中には難しい言葉もたくさんあり、理解するのも苦しみました。留学前に難しいものではなくてよいので何冊か外国語の本を読んでみることもおすすめです。しっかり準備をして有意義な留學生活を送ってください。



メインキャンパスのミュージックセンターは新しく、3つのコンサートホールや図書館、カフェ、コンピュータールーム、レッスンルームで充実していました。



世界各国から学生が集まります。外国人留学生は80人以上です。学期の始まりに、留学生を対象にヘルシンキ市内バスツアーがあります。ヘルシンキ大聖堂の前で1枚。



留学の間、お部屋を貸して下さったオーナーが時々キノコ狩りに連れていってくれました。フィンランドではキノコ狩りは大変人気だそうです。



キノコ狩りシーズン後半は、トランペットの形に似た黄色のキノコがたくさん採れます。保存するためにフライパンで水を飛ばしたり乾燥させます。この写真の量のキノコをクリーニングするのに慣れていない私は5時間かかりました。



オーナーがフィンランドで人気のある「シナモンロール」の作り方を教えてくれました。シナモンロールは滞在中何度も作り、一人で作れるようになりました。またオーナーはトランペットの先生でもありますし、フィンランドで出会った音楽科の友達もみんな料理ができるので驚きました。フィンランドの外食の値段は高いです。



フィンランド語のクリスマス前の授業で、クリスマスによく食べられる「スターパイ」を作りました。パイシートをカットしジャムを載せてオーブンで焼くだけ、とても簡単です。パイシートも10枚で300円とお手頃でしたのでクリスマスシーズンに関わらずよく作りました。



ヘルシンキから北へ約 820 km、オーロラ観測で有名なラップランドの玄関、ロヴァニエミに行きました。日本から友達が遊びに来てくれて2回もサンタクロース村でサンタさんに会うことができました。オーロラは見るできませんでした。また訪れたいです。



フィンランドではキリスト教が文化の中にあり、クリスマスを家族でお祝いします。オーナーが家族のパーティーの私も混ぜてくださいました。スウェーデン料理なども取り入れた北欧料理を楽しむことができました。



フィンランドでポピュラーな
クロスカントリースキーに初
挑戦しました。現地のご年配
の方々に次々と追い抜かれな
がら頑張りました。板が細く
バランスをとるのが難しく何
度も転びました。上り坂が多
く汗だくになりました。やは
り北海道民の私はダウンヒル
スキーが好きです。

専攻はピアノですが、副科楽器で
バイオリンを履修することができ
ました。最後のレッスンの発表会
の様子です。フィンランドのクラ
ス発表会は教育大のようにドレ
スを着たり大きなホールで演奏
することは本当に少ないです。み
なさんカジュアルに近い自由な
服装で年に何度もグループレッ
スンを行います。